

表在型食道癌に対する画像強調内視鏡を用いた脱気時の観察法の検討

1. 研究の対象

2017 年 4 月以降に当院で、通常診療として食道表在癌の内視鏡診断および内視鏡治療が行われた方。

2. 研究目的・方法

食道癌は早期に発見できれば内視鏡治療の適応となり、進行癌に比べて予後は良好です。近年、Narrow band imaging (NBI) や Blue laser imaging (BLI) といったデジタル画像を用いた内視鏡観察法が開発され、食道癌の早期発見と予後改善に寄与すると考えられ日常臨床で広く用いられています。その際、私たちは経験的に食道内をやや脱気した状態で観察する方が病変の視認性が向上すると考えてこれを実践してきました。しかし今までにそれを証明する研究はありません。そのため過去に表在型食道癌に対して内視鏡観察を行い、録画された観察動画をもとにその有用性を評価します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、内視鏡の検査所見、カルテ番号等

試料：なし

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 消化管内科 石原立

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

研究責任者：消化管内科 石原立

-----以上